

# 坂東太郎

2017年11月 NO. 2

第23回労働大学まなぶ友の会  
全国交流集会現地実行委員会

発行責任者：三宅敏之 編集者：小田切博

関東ブロックは、第23回全国交流集会へ向けて、機動設営、文化、編集の実行委員会体制を確立し、全国の仲間を迎える準備をしています。

関東6県協では、獲得課題を明らかにし、関東の団結で水上集會を成功させようと、中間総括と参加者オルグに全力で取り組んでいます。



11/4 現地実行委員会メンバー（ホテル聚楽にて）

## 第1回現地実行委員会を開き、獲得課題が明らかに

10月28日、第1回現地実行委員会が開催され、各県協の獲得課題を討論しました。まず、実行委員会体制の確認と、この一年間の活動の総括から各県協の獲得課題を明らかにしようと率直な討論が行われました。また、実行委員会体制は、四国ブロックに学んで、班体制を組んで各班の任務分担、点検、確認を行うことになりました。



### 群馬県協

4友の会18名の会員です。今年5月急逝したS会長の痛手を受け途方に暮れていました。しかし、S会長の親分肌を引き継ぎ、第23回全国交流集會を三度群馬の地に引き寄せました。温泉地として群馬県内沢山ありますが、敢えて、S会長の弔い交流集會と位置づけ水上の温泉地を選択しました。全国の仲間の皆さんには交流は、宝として体感していただきたいと思います。是非、新緑の群馬を満喫して楽しんで下さい。

### 埼玉県協 会員、読者、家族で参加を！

来年の全国交流集會は、受け入れブロックなので全会員が参加して成功させ、厳しい状況を押し返していく実り多い交流集會にしていこう、と会員60名を中心に読者、家族も共に参加できる取組にする為第一学習会を軸にどういう取り組みを通して60名の結集をかちとっていくのか、各班、友の会で議論している所です。そして、特に次世代の担い手づくり、若者の組織化に向けて、まず自分の家族から始めよう。その為にも健康第一で！と頑張っている所です。



## 茨城県協

筑西や内原など県内の「まなぶ学習会」に県協としてずっと関わってきましたが、会長をはじめ県協四役が病気や親の介護等でここ数年、学習会への参加ができないうでした。来年度の全国交流集会に向け再度、県協として仲間との関わり合いを組織的にしていくことを確認し、二つの学習会に9月から参加させてもらっています。学習会への参加には車で片道一時間半かかりますが、副会長と事務局長の二人三脚でお互い励まし合いながらの参加です。



## 千葉県協

今年度は、大泉事務局亡き後、その後任が決まらず、事務局次長を中心に、四役全体で県協を支えてきました。しかし、長年の大泉事務局長の実績を超えることはできず、全体的には前に進むことはできませんでした。

その体制の中でも、年間計画に基づいて、諸集会は、別項で、報告した通り、参加人数は減りましたが、旗開きから県読者大会、そして、今、まなぶ講演会と全行事を取り組んでいます。諸行事を取り組む中で「参加者が少ないから中止しようか」との声もありましたが、開催すればそれなりの成果もありました。やり続けることが大事だと総括しています。



## 神奈川県協

- ①リストアップをして会員の拡大目標を明確にした目的意識的な取り組みをする。
  - ②受け入れブロックの県協として仲間入りをして、任務を果たすこと。
  - ③所属友の会の強化を図り、昨年実績5名から2名を増やし7名の参加を勝ち取ること。
- を目標に、全国の仲間学习到と取り組んでいます。



## 山梨県協

今年度は会員と読者が増えました。今年の箱根交流集会へはJマートの仲間やリニア反対運動の仲間が初めて参加しました。「寸劇でJマート労組の闘いを取り上げてくれて感動した」と言ってTさんが会員となりました。甲府地区合同学習会の発展が会員と読者の拡大へとつながっています。

峡東労大講座には労組青年部が結集し、友の会員も力が入ります。しきしま友の会の家族ぐるみの参加と峡東地区の参加で目標をクリアしていきたいと思ひます。

